



日本の伝統工法を アフリカ“マラウイ共和国”へ伝授！

- 平成27年7月28日、JICA草の根技術協力の一環として、JICA研修員（アフリカ・マラウイ共和国4名）に対し、日本の伝統工法である粗朶沈床工の実地研修を実施します。
- 粗朶沈床工の現地視察後、模型やビデオを利用した詳細な説明や枝束ね・結束方法の実演（技術）指導を行い、日本の伝統工法を伝授します。
- 一昨年、昨年と同様の研修を実施しており、今回で3回目となります。

1. 日時 平成27年7月28日（火）

- ① 第1部 9：00～9：30 鎌田大橋付近・現地視察
- ② 第2部 10：00～12：00 渋谷建設（株）構内・実演指導

2. 場所 ※別紙位置図参照

- ① 第1部 現地視察 阿武隈川・鎌田大橋左岸上流200m付近護岸（川際）
- ② 第2部 実演指導 渋谷建設（株）構内 伊達郡桑折町大字万正寺字妻田2-3

3. 視察者

- ① JICA研修員：アフリカ・マラウイ共和国 4名
- ② 研修員の案内：NPO法人あぐりねっと21

4. 現地説明、実演指導

- ① 福島河川国道事務所
- ② 渋谷建設（株）

発表記者会〈福島県政記者クラブ、福島市政記者クラブ〉

【問い合わせ先】

- 国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所

- ・ 副所長（河川） にへい あきひろ 二瓶 昭弘（内線204）
TEL024（546）4331（代）
（福島県福島市黒岩字榎平36）
- ・ 伏黒出張所長 くりた そとみ 栗田 外美
TEL024（583）3233
（福島県伊達市箱崎字中32-1）

- 特定非営利活動法人（NPO）あぐりねっと21

- ・ 事務局 むらかみ ともあき 村上 智亮
TEL022（726）3677
（仙台市青葉区本町3丁目6-17）

位置図



海外への技術協力～日本の伝統工法を伝授～

- 平成27年7月28日、JICA草の根技術協力の一環として、JICA研修員(アフリカ・マラウイ共和国4名)に対し、日本の伝統工法である粗朶沈床工の現地研修を実施。
- 粗朶沈床工の現地視察後、模型やビデオを利用した詳細な説明や枝束ね・結束方法の実演(技術)指導を行う。
- 一昨年、昨年も同様の研修を実施しており、今回で3回目となります。

前回(平成26年度)の様子



現地視察・模型を利用した説明

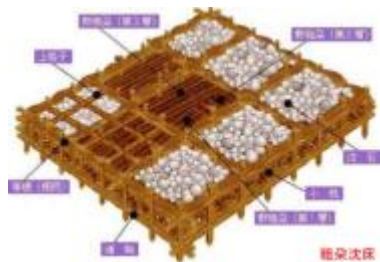


実演(技術)指導



昨年のマラウイ共和国からの礼状

(1) 粗朶沈床工とは・・・



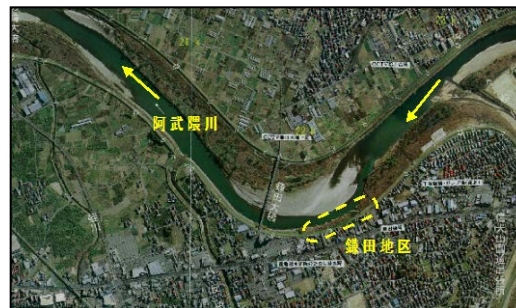
粗朶沈床構造イメージ

「粗朶沈床工」とは、明治時代から昭和20年代くらいまで、よく造られていた河川護岸の工法で、自然に優しい工法として採用されています。粗朶とは「里山」の雑木から伐採した木の枝のことで、粗朶の材質として、クリ、ナラ、カシ、クヌギ等の堅固で靱性に富んだ樹木や、エゴ、ナナカマド、コブシ、カエデ、サクラ、クロモジ、リュウブ等の柔軟性に富み粘りある樹木等、数多くの広葉樹（雑木）を用いています。粗朶沈床は柔軟性に富んでいるため、河床の変化に馴染みよく設置可能で、その後の河床の変動にも追従するなど、屈撓性に富んでいるため護岸や根固に適しています。素材間の隙間の形状が多様で流速の変化も大きいため、小魚類や底生動物などの様々な水生生物の生息空間を創り出します。

(2) 鎌田地区における施工事例

鎌田地区は、阿武隈川の右岸部に大きな砂州が発達し、左岸部が常に水衝部となり、河床変動や河岸洗堀が著しい状態でありました。

同地区において、粗朶沈床工を採用した理由としては、①河床変動に追従できる構造であるほか、河川法改正以降、②環境に配慮した河川整備が求められたこと、また、③伝統技術の継承を目的に「粗朶沈床工」を採用しています。

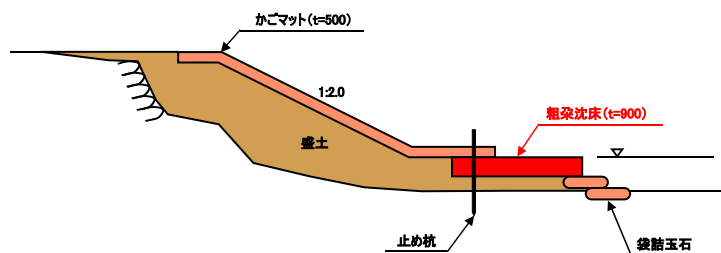


鎌田地区（航空写真）



洗堀された河岸

標準断面図
(施工)



着工前 (H19.11月)



完成 (H20.3月)



連柴の製作



連柴の製作



吊り込み状況



敷設完了



沈石投入